

ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための「新たな場」に関する 知床ヒグマ対策連絡会議としての検討結果

【経緯】

- (H30.9.27) 第1回適正利用・エコツーリズム検討会議において、ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための「新たな場」の設置について提案。
- (H30.10.5) 緊急知床ヒグマ対策連絡会議において、「新たな場」の検討を行った結果、各町（斜里町、羅臼町、標津町）において「新たな場」の設置を合意。
- (H30.10.31) 第1回知床ヒグマ対策連絡会議において、各町における「新たな場」の検討状況、進捗状況を報告。
- (H30.11.19) 第2回エゾシカ・ヒグマWG会議において、知床ヒグマ対策連絡会議より「新たな場」の検討状況、進捗状況を報告。
- (H31.2.28) 第2回適正利用・エコツーリズム検討会議において、知床ヒグマ対策連絡会議より「新たな場」の検討状況、進捗状況を報告。

【「新たな場」での検討条件】

- ①世界遺産地域におけるヒグマと人との関係の望ましい状態（解決の終着点）について合意する。
- ②合意後、参加組織は持てる資源（能力）を総動員して、解決策を創る。
- ③参加する組織や個人の過去の言動についての批判や評価は一切しない。

【結果】

- ✓ ヒグマ管理計画については、すでに町民の合意が得られていることから、抜本的に変える必要性はない。
- ✓ 今後もヒグマ管理計画の枠組みの中で進めて行く。
- ✓ 3町それぞれの形で、アクションプランに住民意見を反映していくことをこれからも継続していく。
- ✓ ヒグマ管理計画で合意された目的がありこれに基づいて進めているため、これを崩さないでやっていくのが知床地域の合意と考える。